



第16回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム社会科学学生賞～

入賞

「日米の国際通信トラフィック交流の非対称性に関する実証分析」

武川 恵美 早稲田大学 大学院 社会科学研究所 修士課程2年

米国の国際通信トラフィック交流の非対称性に関するCheogn & Mullins (1991) の先行研究で使われたモデルを用いて、日米の国際通信トラフィック交流の非対称性について分析した優れた実証研究である。

「電気通信事業法と独占禁止法 ー特に料金規制との関連において」

鐘 文興 神戸大学 大学院 法学研究科 博士前期課程2年

電気通信サービスの料金割引をめぐる二つの事件を題材にして、電気通信事業法および独占禁止法のあるべき姿を検討している。理論構成はしっかりとしており、「電気通信分野における競争制限的行為に実効的かつ包括的に対処するためには、競争促進のためのルール作りを行うことも必要である」という提言にも説得力がある。

「電子商取引の準拠法」

白木 達也 慶應義塾大学 法学部 法律学科4回生

サイバースペース上でトラブルが発生した場合、どこの国の法律を適用するかという準拠法決定の問題について、電子商取引の分野に的を絞って検討されている。理論構成もしっかりとしており、よくまとめられた論文である。

「『メディアと身体』を語るパラダイム ー関係性としてのインターフェイスを手がかりに」

伊藤 耕太 同志社大学 大学院 文学研究科 博士前期課程1年

携帯電話を介したコミュニケーションについて、先行研究を踏まえたうえで「メディアと身体」をテーマに論じている点に新規性がある。今後さらに掘り下げた研究が期待される点である。

「TVコマーシャルにおける非言語的表現」

村山 依子 神戸大学 国際文化学部 コミュニケーション学科4年

世界各国のTVコマーシャル675本と日本のTVコマーシャル670本について分析した労作で、TVコマーシャルにおける非言語的表現について詳しく考察している点が評価できる。

「電気通信分野における費用構造および競争政策に関する考察」

春日 剛 東京大学 経済学部 経済学科3年

伊藤 由希子 東京大学 経済学部 経営学科3年

小坂 賢太 東京大学 経済学部 経済学科3年

引馬 誠也 東京大学 経済学部 経済学科3年

吉田 弘毅 東京大学 経済学部 経済学科3年

費用構造に着目して、長距離・国際と地域に通信事業を分類するとともに、日本の最重要通信政策が“地域通信事業の生産性をいかに向上させるか”であることを抽出した思考プロセスがユニークである。

佳作

「次世代高速通信ネットワークの構築に向けての提言 ―通信インフラにおけるPFIの導入」

阿部 拓也	早稲田大学 政治経済学部 経済学科4年
北林 務	早稲田大学 政治経済学部 経済学科4年
清水 養	早稲田大学 政治経済学部 経済学科4年
常田 昌人	早稲田大学 政治経済学部 経済学科4年

日本の通信サービスの後進性を日本の政治構造に踏み込んで深く分析している。政治の干渉を排除するためにはNTTを純粋民間会社にすべきだという提案、並びに、その方策として自治体主導のPFI方式による光ファイバー網の整備という提案は若者らしく、具体的で、野心的で、大胆さに溢れている。

「日本企業におけるテレワーク定着への課題 ―適合化をめぐる事例の検証」

品田 房子	立命館大学 大学院 社会学研究科 博士前期課程2回生
-------	----------------------------

日本におけるテレワークの定着を阻害する要因を検証し、日本の雇用形態および雇用慣行の問題点をうまくまとめている点が評価できる。

「iモードを中心にしたビジネスの可能性」

安藤 歌織	同志社大学 商学部3回生
東 愛子	同志社大学 商学部3回生
馬場 大策	同志社大学 商学部3回生
美淋 暁子	同志社大学 商学部3回生
藤田 和生	同志社大学 商学部3回生
福田 友輔	同志社大学 商学部3回生

iモードサービスのビジネス分野（B2B，B2C）における広範な可能性について、豊富な事例を交えながら、利用者の視点に立って論じている。記述が具体的で、わかりやすい点が評価できる。